

令和5年度調査報告

「支部活動のあり方と看護協会の
認知度について」



公益社団法人青森県看護協会

東 青 支 部

令和6年5月吉日

目 次

	ページ
【はじめに】	・・・ 1
【調査結果】	・・・ 2
＜調査概要＞	・・・ 2
1. 年齢	
2. 職種について	・・・ 3
3. 通算経過年数	
4. 役職等について	
5. 勤務施設について	・・・ 4
6. 支部活動について	
1) 認知度	
2) 支部役員の役割・活動について知っているもの	
3) 支部集会に参加したことがあるか	・・・ 5
4) 支部集会に参加した理由	
5) 支部集会に参加しない理由	・・・ 6
6) 支部研修会に参加したことがあるか	・・・ 7
7) 支部研修会に参加した理由	
8) 研修会に参加しない理由	・・・ 8
9) 今後、支部の研修会に参加したいか	
10) 所属施設での支部活動に関する情報共有について	・・・ 9
11) 情報共有されている場合の内容	
12) 支部役員を経験したことがあるか	
13) 役員を経験したことについて	・・・ 10
14) 役員を経験したことはないが、今後について	

7. 青森県看護協会について

- 1) 認知度：目的、使命、活動理念、基本戦略 . . . 11
- 2) マナブルについて
- 3) マナブルの登録状況と意向 . . . 12
- 4) マナブルを知らない人の登録意向
- 5) 通常総会・職能集会の要綱について
- 6) 広報 看護 青い森 について . . . 13
- 7) 青森県看護協会の6事業について知っているもの
- 8) 看護協会の必要性について . . . 14
- 9) 今後の会員継続意思について

はじめに

支部会員の皆様、日頃より支部活動にご協力いただき感謝申し上げます。

コロナ禍での看護職は、スタッフの確保や、次々に求められた果たすべき役割・課題に対し、迅速かつ誠実に対応してきました。乗り越え今があるのは、多くの看護職の努力のたまものであると感じています。

役員会においても、役員から「現場の声」を聴き、看護協会の役割や支部活動について考えるきっかけとなりました。そして、より「会員の声」を聴きたい、聴かなければと思うようになりました。

また、看護協会事業について伝わっていない、支部活動を通して伝えなければいけないと感じました。

そこで、協議をかさね、今回調査を実施させていただきましたので、報告させていただきます。

今後も、「会員の声」を大切に、支部活動に活かしていきたいと考えております。ぜひ、看護協会事業、支部活動にご参加下さい。お待ちしております。

令和6年5月吉日

公益社団法人青森県看護協会 東青支部長 角田 つね

調査結果

<調査概要>

【調査対象】青森県看護協会 東青支部会員

【テーマ】支部活動のあり方と看護協会の認知度について

【目的】1. 得られた結果を、支部活動のあり方の参考にする。

2. 看護協会事業の認知度を知り、支部活動の中で伝える。

【調査方法】質問用紙または調査専用サイトを利用し回答を得た。

質問内容のカテゴリーは、会員の背景（5問）、支部活動（8問）、青森県看護協会（10問）であり、選択またはフリー記載とした。

質問については、送信又は返送をもって同意とした。

【回答方法】以下の3種類から1つ選択し回答する。

1. マナブル（青森県看護協会ホームページからアクセス）

2. グーグルフォーム（QRコードを読み取りアクセス）

3. 質問用紙に回答を記載し返送

【回答期間】令和5年12月8日～令和6年1月31日

【調査結果】12月22日現在東青支部会員数2093名、回答数601名、

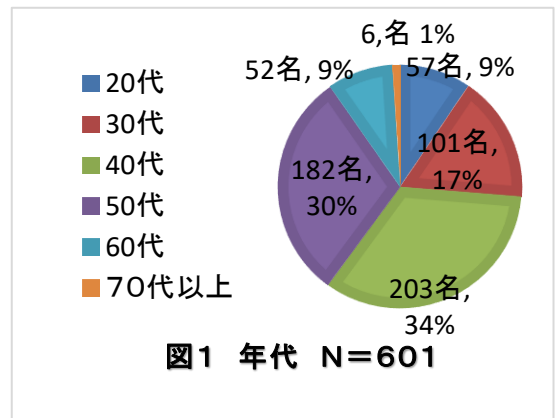
回収率28.7%

1. 年齢について（図1）

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
ペーパー群	1	5	14	26	20	4	70
マナブル群	0	0	2	6	0	0	8
グーグル フォーム群	56	96	187	150	32	2	523
合計	57	101	203	182	52	6	601

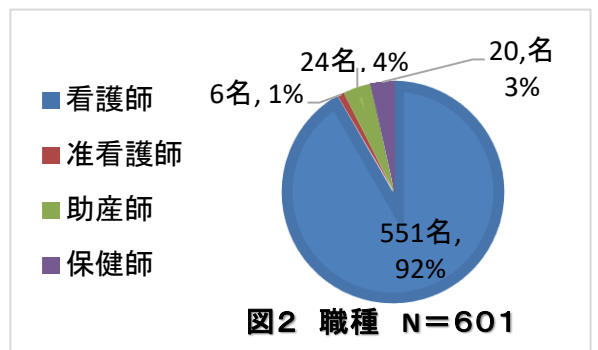
年齢は、40代34%、50代30%、30代17%であり、中堅からベテラン看護師が大多数であることが考えられる。

20代が9%であり、20代の参加が課題と言える。



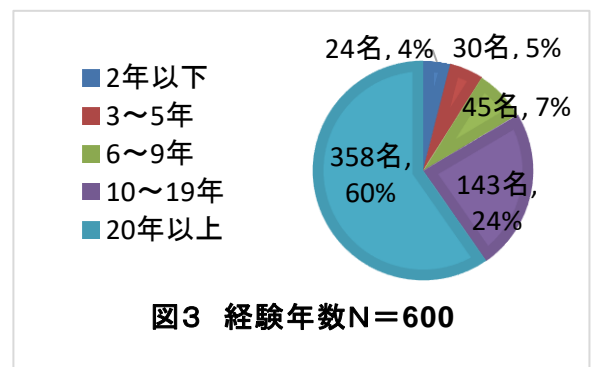
2. 職種について (図2)

職種は、看護師が92%とほとんどを占めていた。



3. 通算経験年数 (図3)

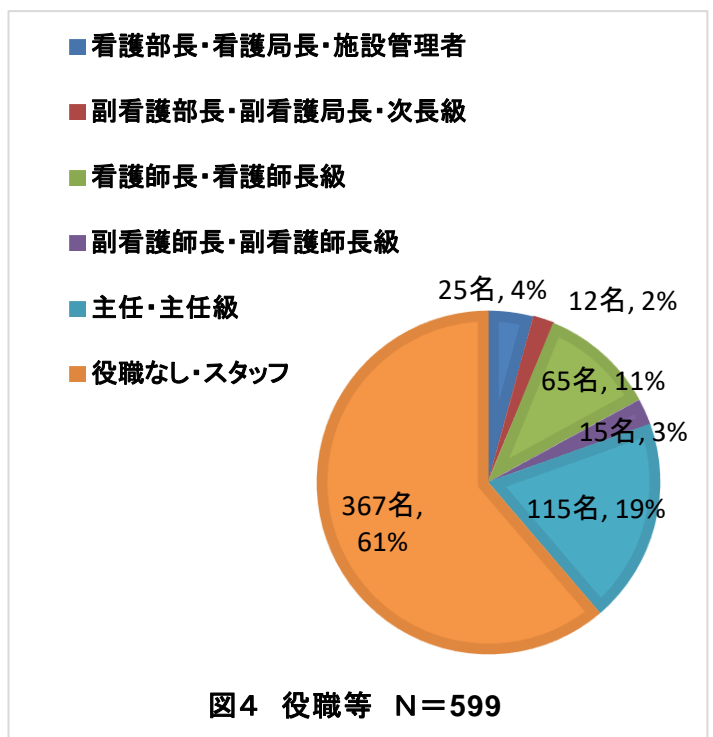
20年以上が60%、10~19年が24%であり、経験年数が多い方の回答が多かった。経験年数の低い方の参加が課題と言える。



4. 役職等について (図4)

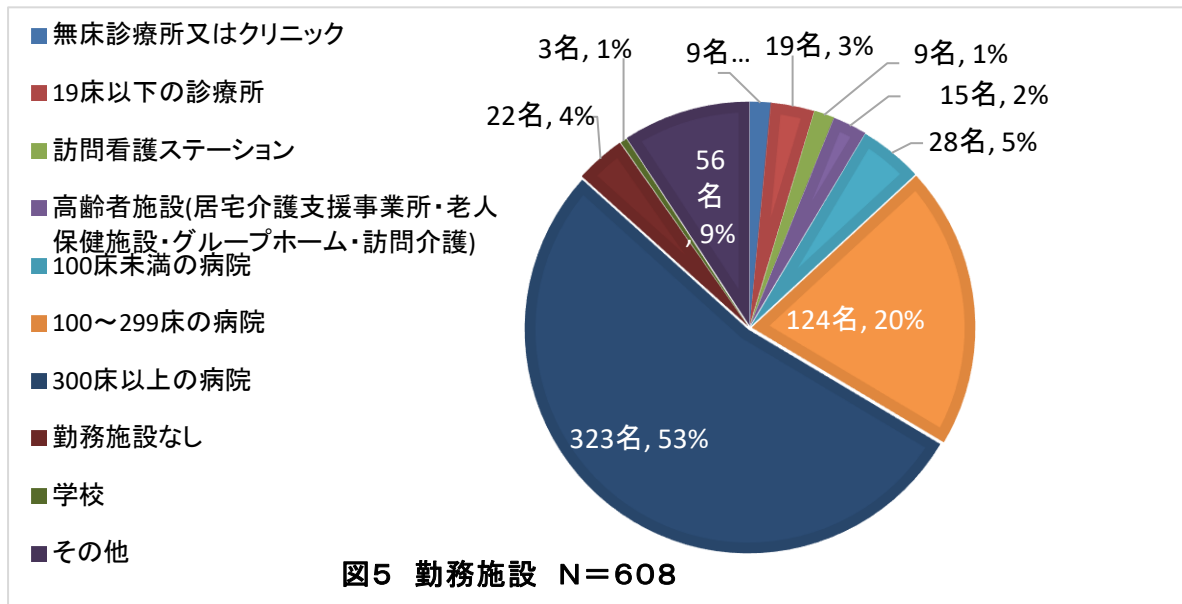
役職なし・スタッフが61%であり日常現場で活躍している方の回答であった。また、主任・主任級が19%、看護師長級が11%、副看護師長・副看護師長級が3%であり、全体の3分の1が、現場のマネジメントを担当している方であった。

看護部長・看護局長・施設管理者も25名であり、多くの管理者の回答があった。



5. 勤務施設について（図5）

300床以上の病院が53%、100～299床が20%、100床未満5%と合計78%が病院勤務者であった。

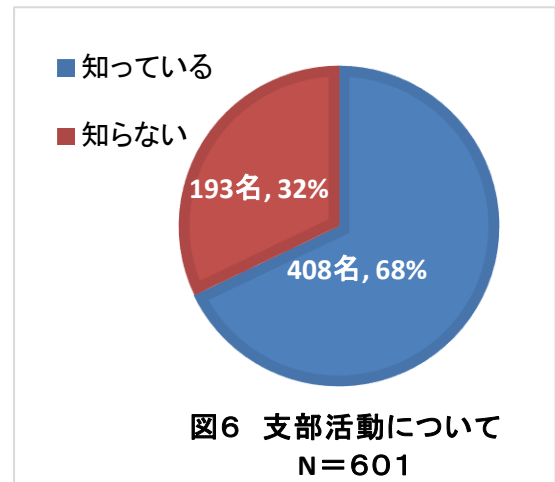


6. 支部活動について

1) 認知度（図6）

青森県看護協会には、「東青支部・中弘南黒支部・三八支部・西北五支部・下北支部・上十三支部」の6支部があることを知っているが68%であった。

32%の方が知らないと答えており、今後の課題と言える。



2) 支部役員の役割・活動について知っているもの（複数回答可）（図7）

最も多かったのは、支部集会・研修会の企画・運営が410名、次に多かったのは、広報活動「看護青い森」への投稿401名、支部役員会の運営383名であった。これは、支部が企画・運営・実施している事であり、支部役員が関わっていることで認知されていると言える。また、健康祭り等の地域イベントへの協力も認知されていた。

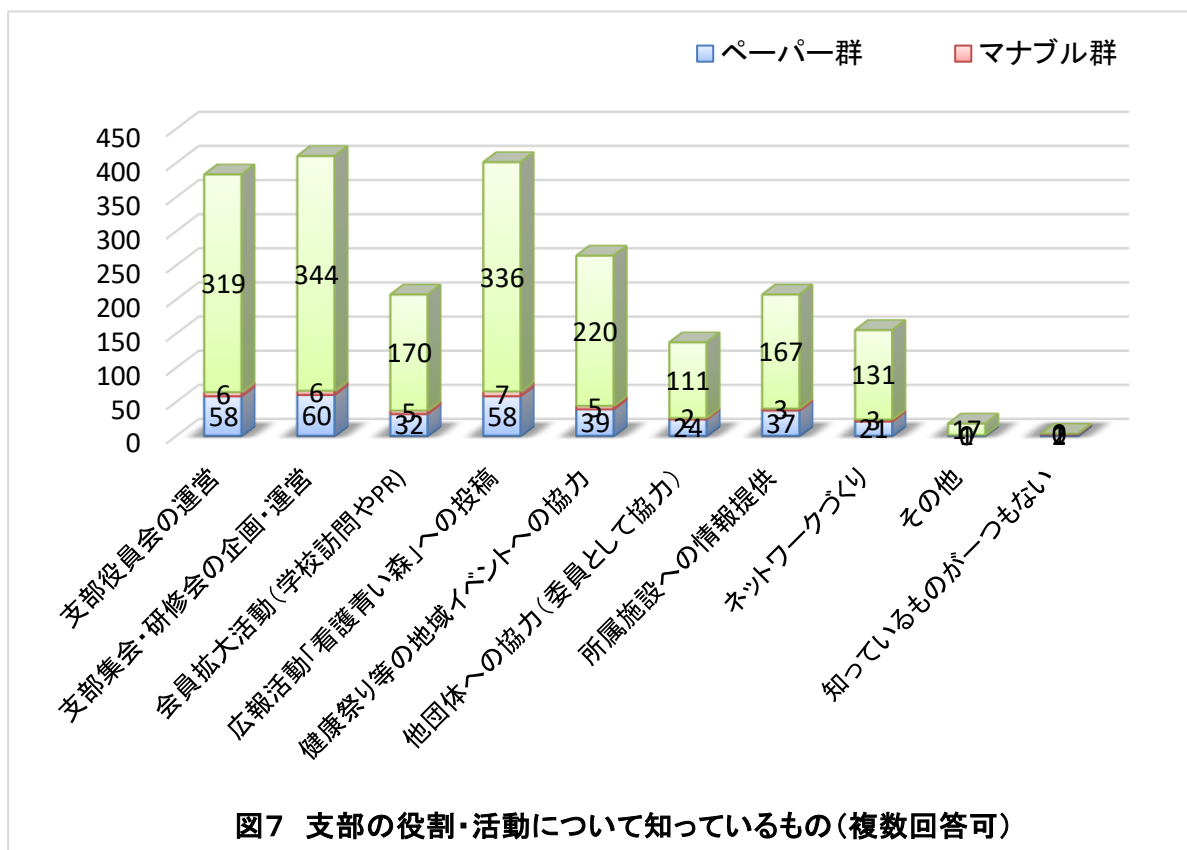


図7 支部の役割・活動について知っているもの(複数回答可)

3) 支部集会に参加したことがあるか(図8)

支部集会に参加したことがある方が26%であった。参加したことがない方が74%であり、約4分の3が参加したことがないと回答してくれた。

今回の回答で、看護協会についての理解を深める機会となることを期待したい。

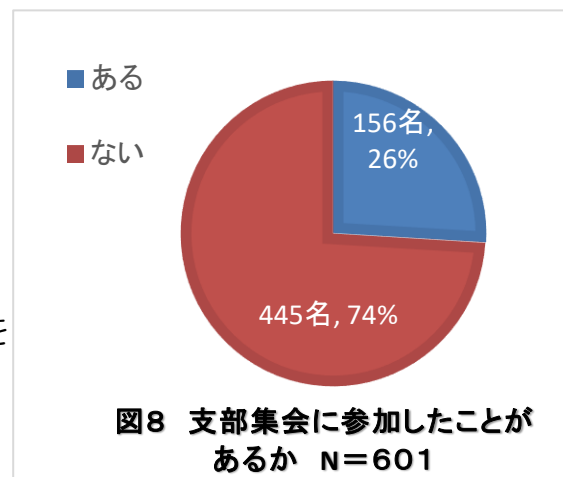
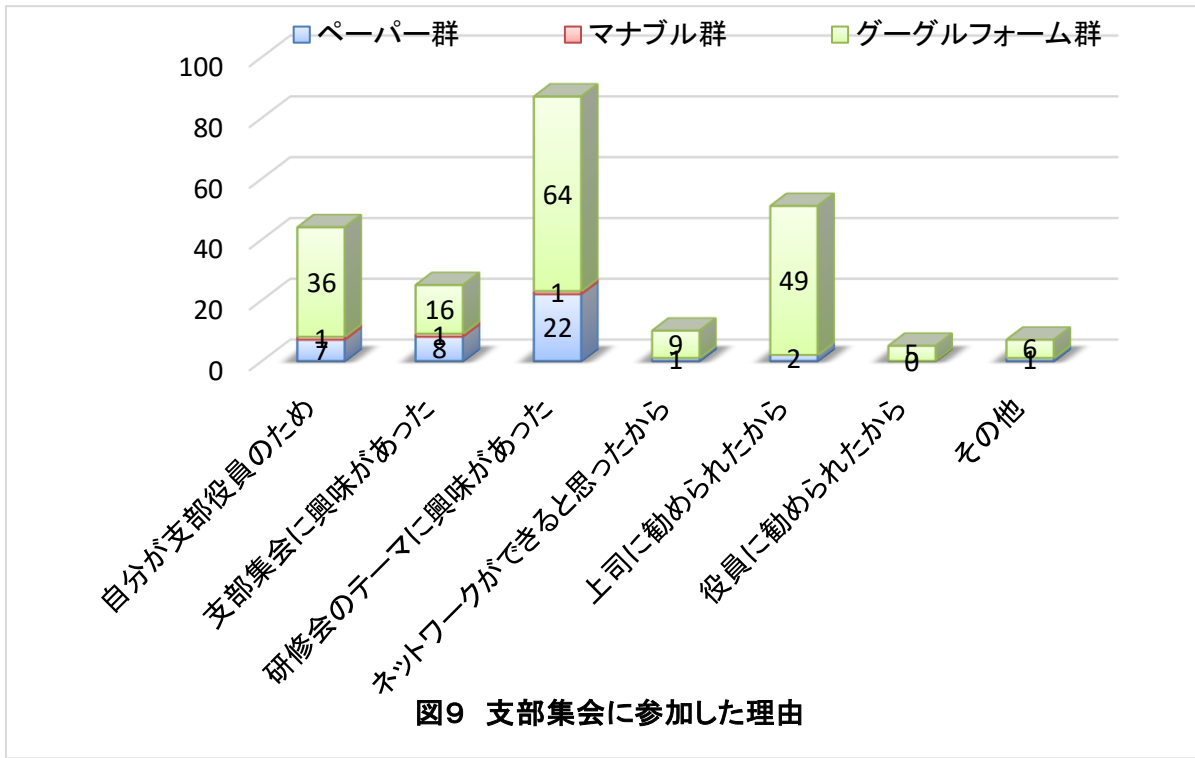


図8 支部集会に参加したことがあるか N=601

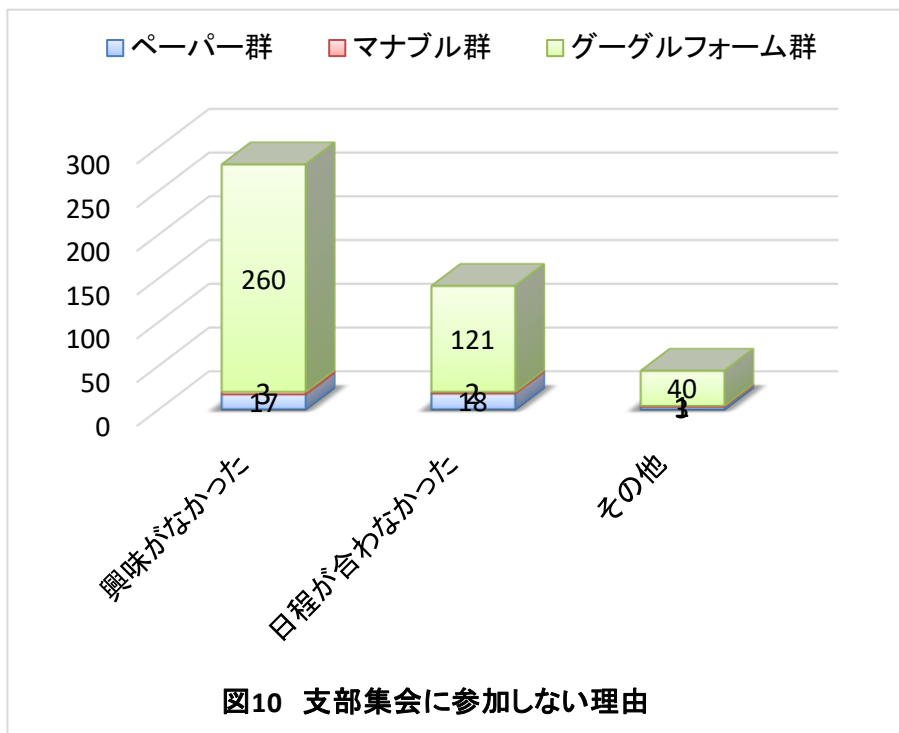
4) 支部集会に参加した理由(複数回答可)(図9)

最も多かったのは、研修会のテーマに興味があったから87名、38%であった。次に上司に勧められたから51名、22%、自分が支部役員のため25名、11%であった。支部研修会のテーマと上司からの勧めが参加するきっかけになっていると思われる。



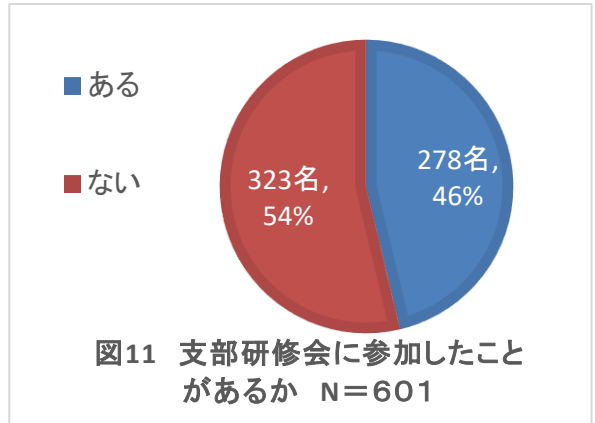
5) 支部集會に参加しない理由 (図 10)

興味がなかった 280 名、60%、日程があわなかった 141 名、30%であり、計 90%をしめていた。よって、興味を持ってもらえるテーマの選定が重要であると言える。



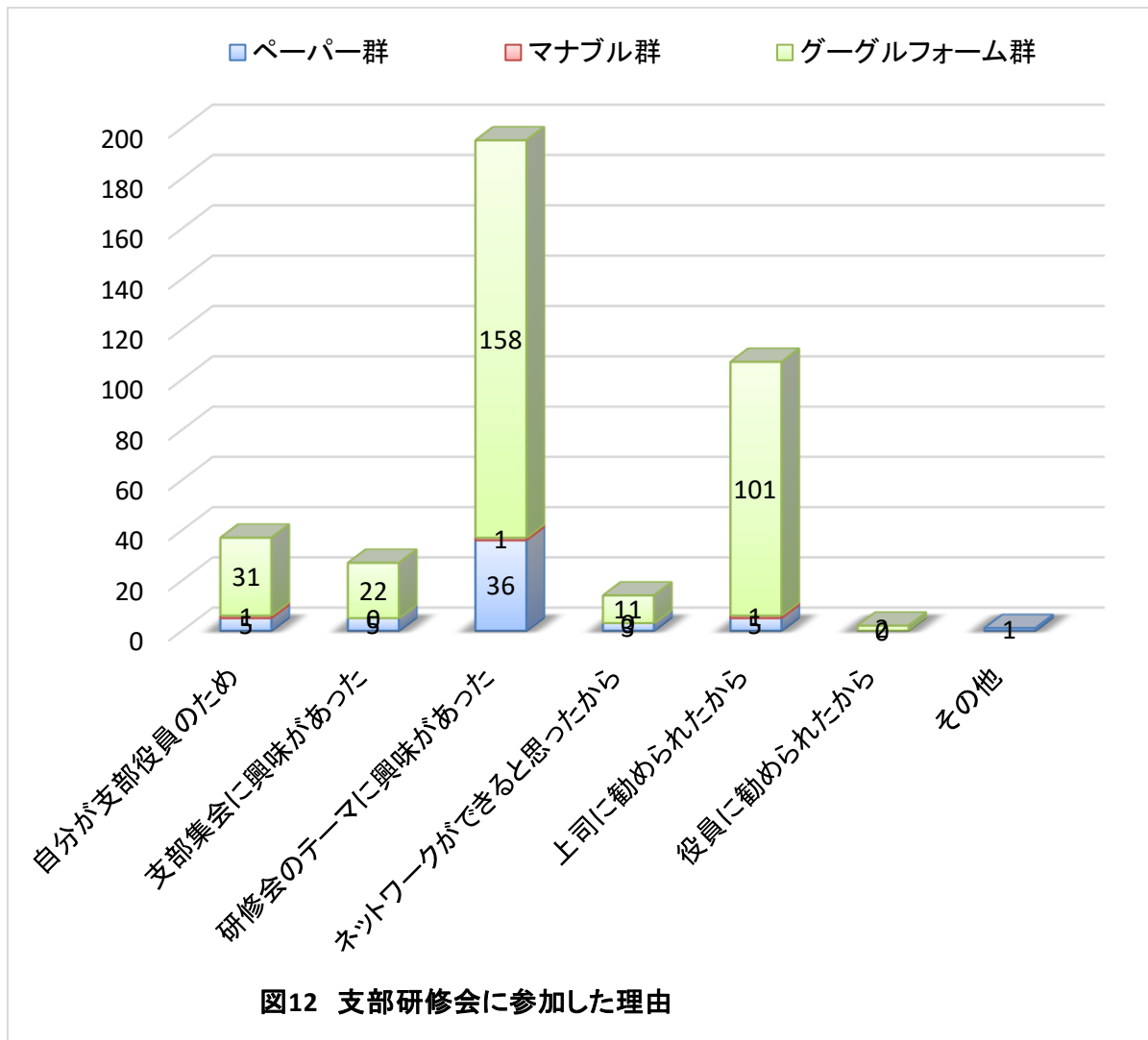
6) 支部研修会に参加したことがあるか (図 11)

参加したことがある 278 名、46%、
 参加したことない 323 名、54%
 であった。



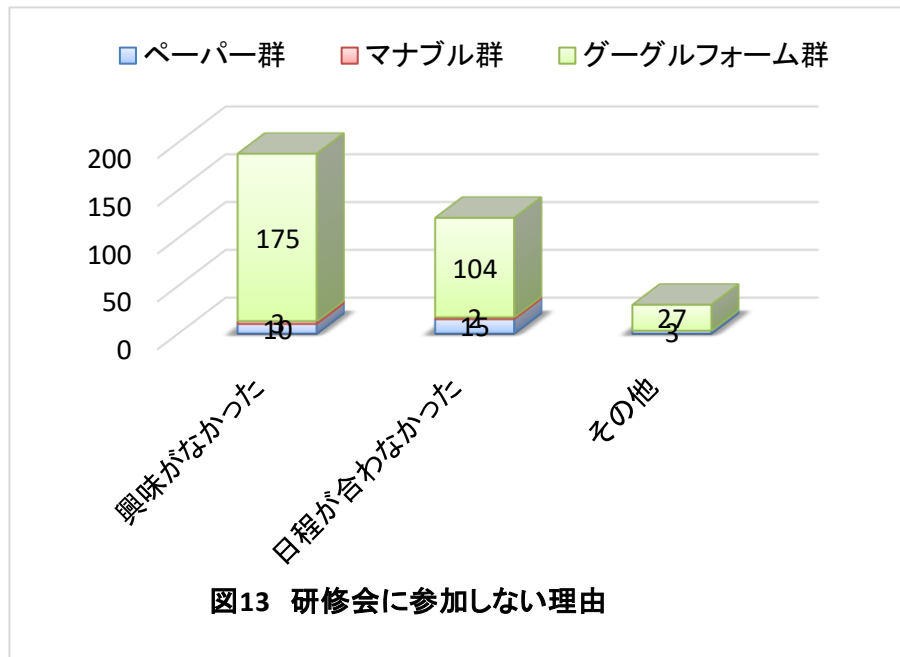
7) 支部研修会に参加した理由 (複数回答可) (図 12)

最も多かったのは、研修会のテーマに興味があった 195 名、51%、次に上司に勧められたから 107 名、28%、自分が支部役員のため 37 名、10%であった。ここでも研修会のテーマと上司からの勧めが、参加行動に影響していると言える。



8) 研修会に参加しない理由 (図 13)

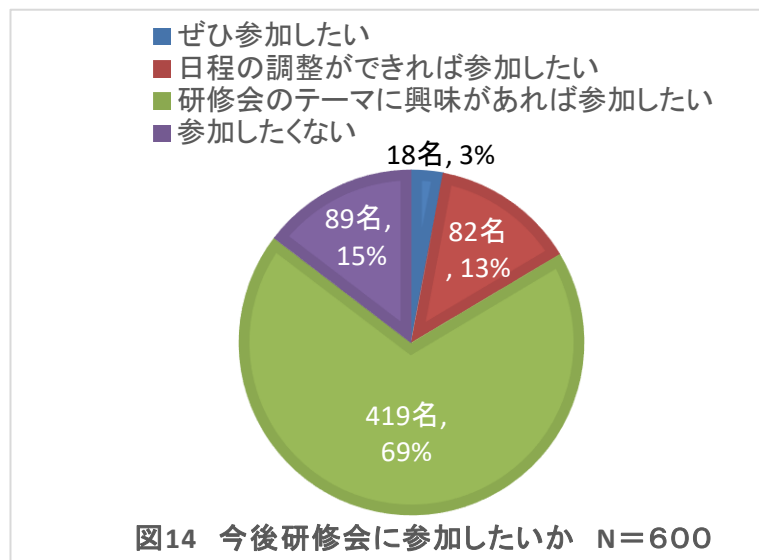
興味がなかった 188 名、55%、日程が合わなかった 121 名、36%であり、計 91%をしめており、支部集会に参加しない理由と同様であった。



9) 今後、支部の研修会に参加したいか (図 14)

研修会のテーマに興味があれば参加したい 419 名、69%、日程が調整できれば参加したい 82 名、13%、ぜひ参加したい 18 名、3%であった。研修会のテーマの選定がポイントと言える。

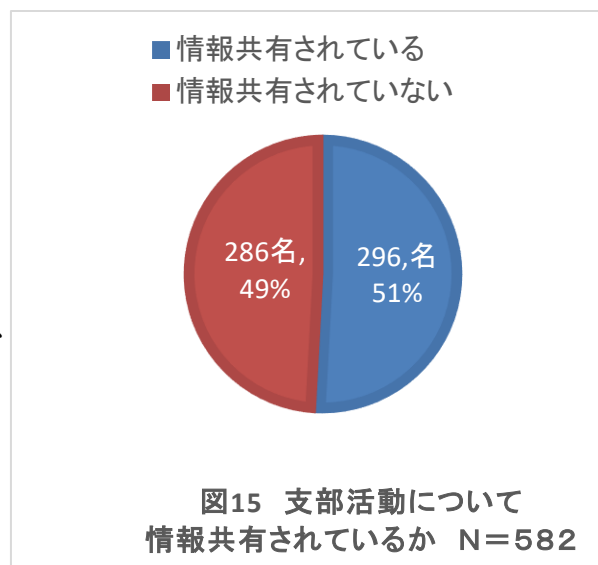
しかし、89 名、15%が参加したくないと答えており、興味をもってくれるような働きかけを検討する必要性を感じた。



10) 所属施設での支部活動に関する情報共有について (図 15)

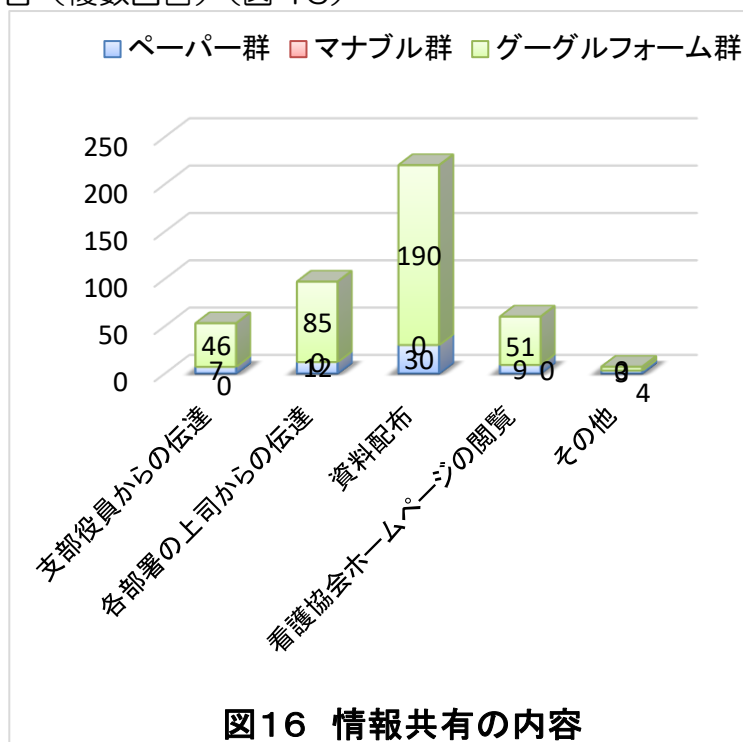
情報共有については、
 されている49%、されていない
 51%であった。

全体の半分に、情報が伝わって
 いないのではないかと考える。今後、
 いかに関所属施設内で、情報伝達・
 共有をするか検討が必要と考える。



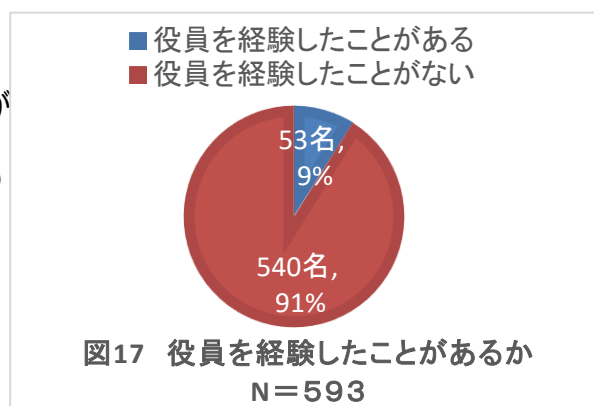
11) 情報共有されている場合の内容 (複数回答) (図 16)

資料配布 220 名、50%、
 各部署の上司からの伝達 97 名、
 22%、支部役員からの伝達 53
 名、12%、看護協会ホーム
 ページの閲覧 60 名、14%で
 あった。



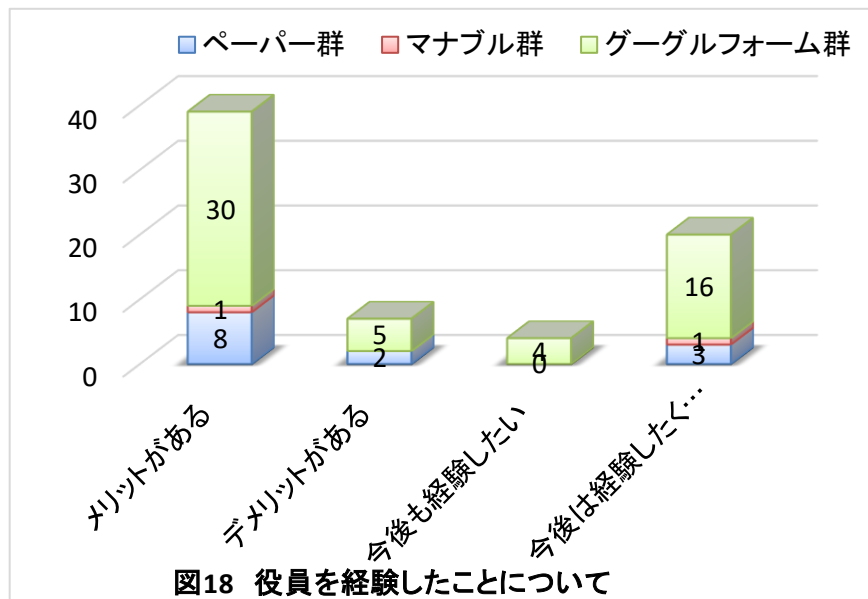
12) 支部役員を経験したことがあるか (図 17)

役員を経験したことがあるが
 53 名、9%。役員を経験したことが
 ない540 名、91%であり、今回の
 回答により、末端の会員の声を聴く
 機会になったのではないかと感じて
 いる。



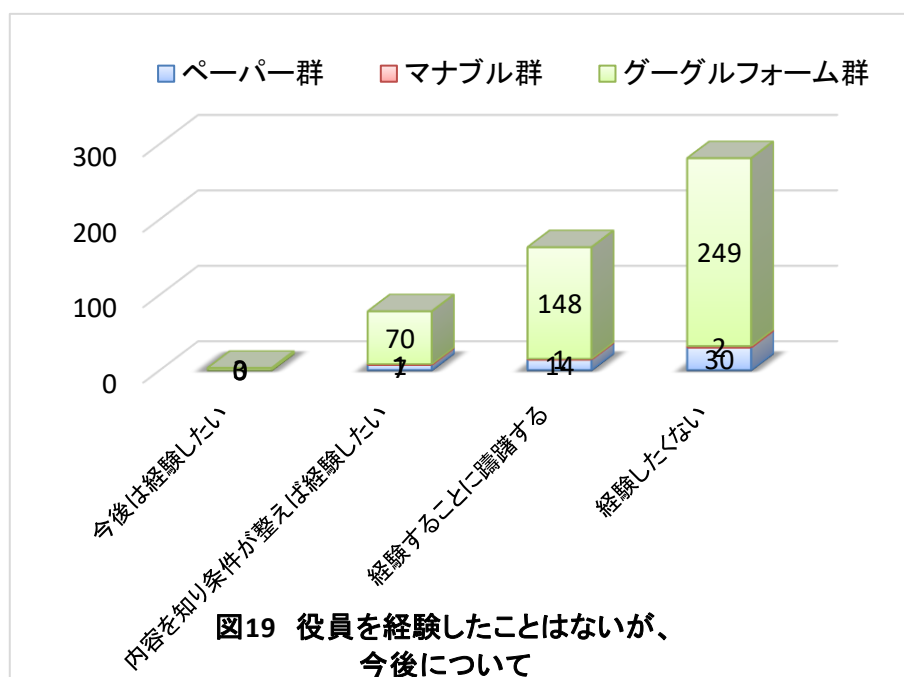
13) 役員を経験したことについて（複数回答可）（図 18）

メリットがある39名、56%、デメリットがある7名、10%、今後も経験したい4名、6%、今後は経験したくない20名、28%であった。



14) 役員を経験したことはないが、今後について（図 19 名）

今後は経験したい3名、1%、内容を知り条件が整えば経験したい78名、15%であり、今後に期待したい。経験したくない281名、53%、経験することに躊躇する163名、31%であり、今後、役員を引き受けてくれる条件や、環境の改善等を検討し取り組む必要があると感じた。



7. 青森県看護協会について

1) 認知度

看護協会目的を知っている・あいまいだが知っているは、454名75.5%。
使命については、434名72.3%、活動理念については、344名57.3%、
基本戦略については、297名49.5%であった。目的、使命は知っているが、
活動理念、基本戦略を知っている人は、少なくなっていた。

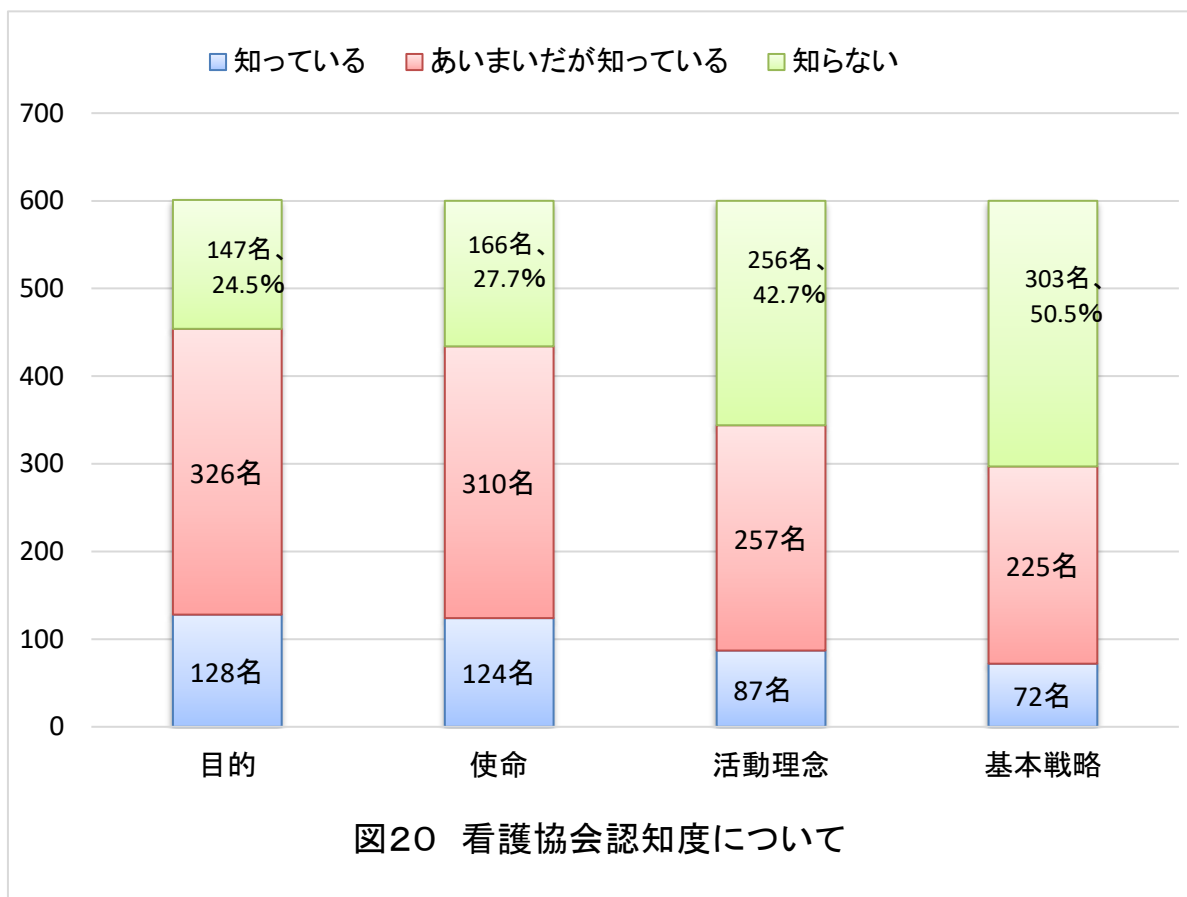


図20 看護協会認知度について

2) マナブルについて

512名、85%が知っていた。

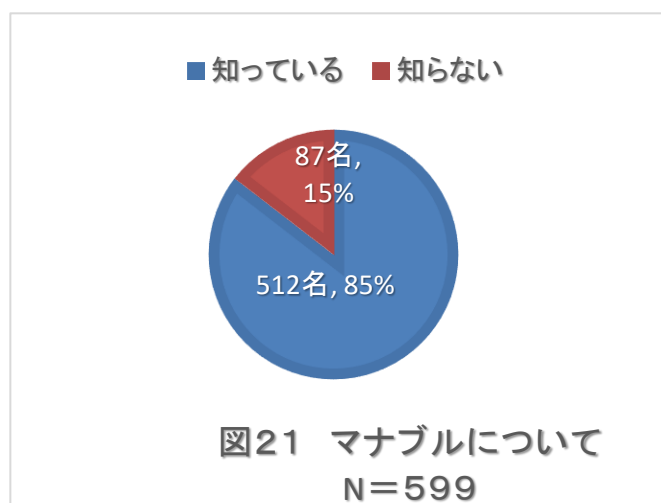


図21 マナブルについて
N=599

3) マナブルの登録状況と意向 (図 22)

これから登録するが 61 名、登録しない 20 名、登録できない 1 名、登録を迷っているが 33 名であった。

4) マナブルを知らない人の登録意向 (図 23)

これから登録するが 11 名、登録しないが 29 名、登録できない 6 名、登録を迷っているが 34 名であった。

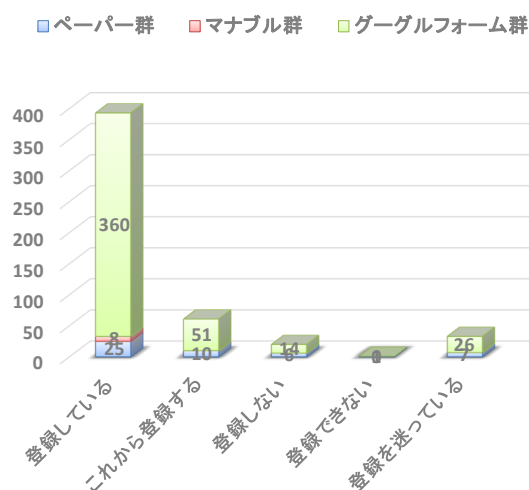


図 22 マナブルを知っている人の登録状況・意向

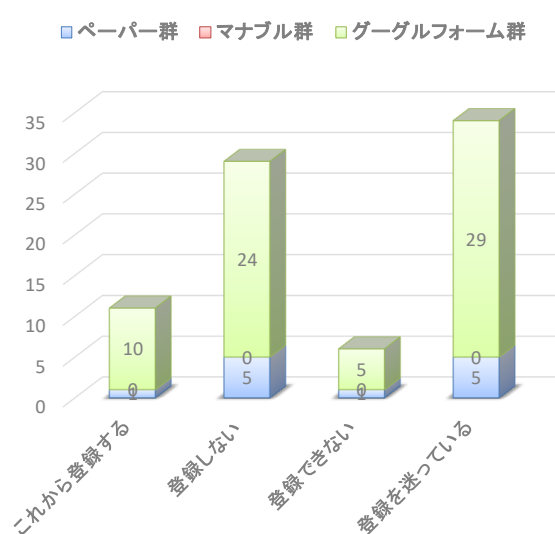


図 23 マナブルを知らない人の登録意向

5) 通常総会・職能集会の要綱について (複数回答可) (図 24)

熟読している 10 名 1%、一通り目を通して 265 名 38%、計 39%の方が要綱に目を通していた。また、ほとんど目を通していない 147 名 21%であった。

配布されている要綱を手にとり読んでもらうよう働きかけが必要と

考える。保管している 32 名 5%、一定期間保管している 113 名 16%、計 21%であった。わりと早くに廃棄している 124 名 18%であった。

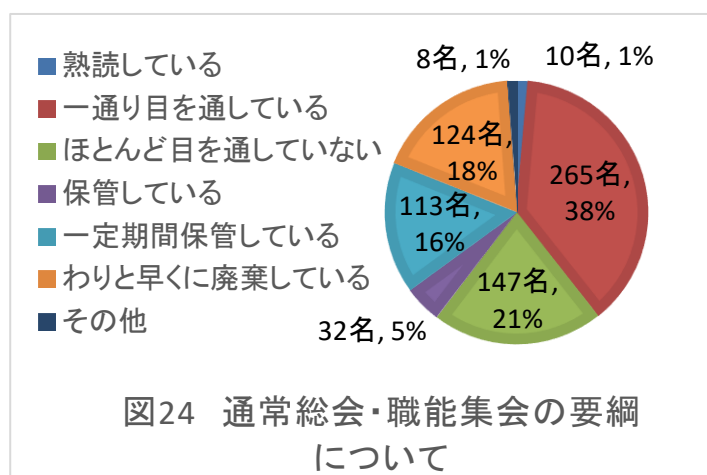


図 24 通常総会・職能集会の要綱について

6) 広報 看護 青い森 について (複数回答可) (図 25)

熟読している 35 名 5%、一通り目を通して 389 名 56%、計 61%の方が広報に目を通してあり、会員への情報提供に有効であるのではと考える。また、ほとんど目を通していない 93 名 14%であり、配布時に手にとり読んでもらうよう声掛けをする等工夫が必要と考える。保管している方は、7 名 1%、一定期間保管している 70 名 10%、計 11%であった。保管は、総会要綱と比較して約半数であった。わりと早くに廃棄している 98 名 14%であった。

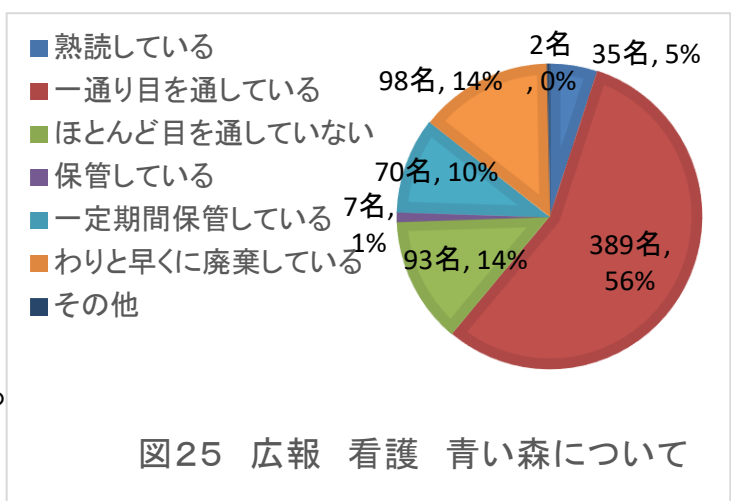


図25 広報 看護 青い森について

7) 青森県看護協会の 6 事業について知っているもの (複数回答可) (図 26)

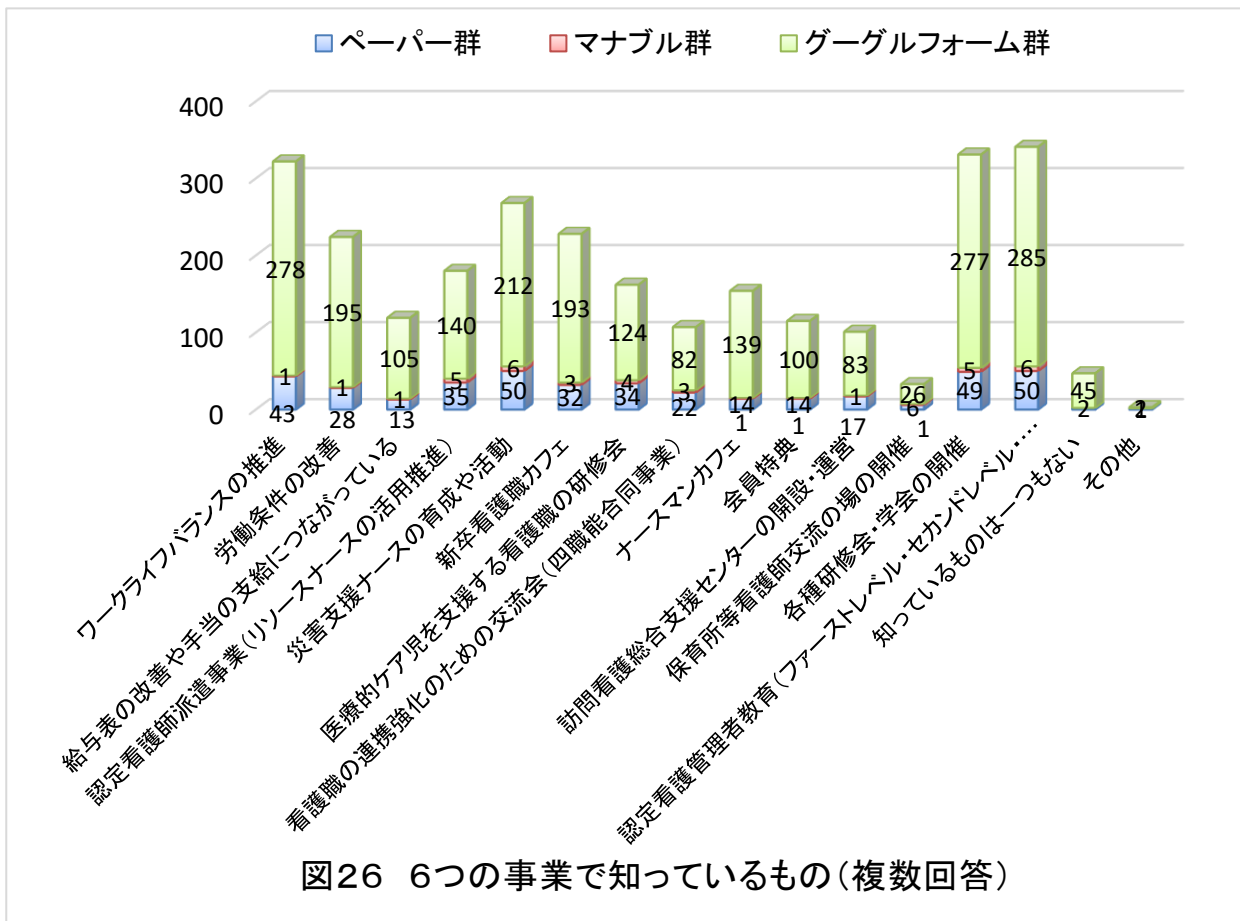
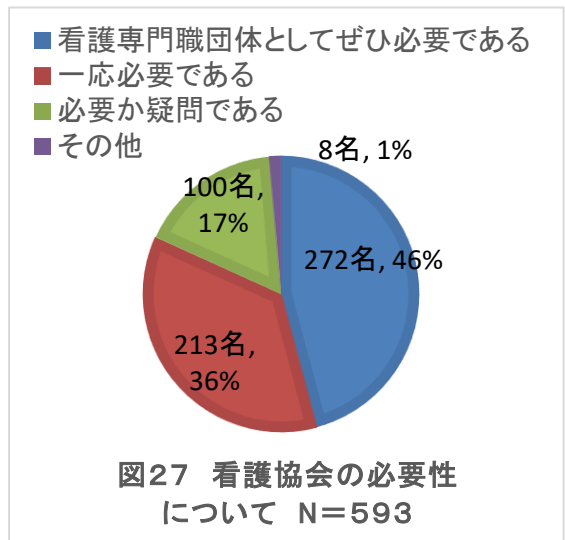


図26 6つの事業で知っているもの(複数回答)

最も多かったのは、認定看護管理者教育（ファーストレベル、セカンドレベル、サードレベル）341名、次に各種研修会・学会の開催331名であり、計672名が教育や研修について知っていると回答していた。また、ワークライフバランスの推進322名、労働条件の改善224名、計546名が労働に関する回答であった。その他、災害支援ナースの育成や活動が268名、新卒看護職カフェ228名であった。

8) 看護協会の必要性について (図27)

看護専門職団体としてぜひ必要である272名46%、一応必要である213名36%、計485名82%の方が必要であると回答していた。また、必要か疑問であるが100名17%であった。



9) 今後の会員継続意思について (図28)

働いている限りは、継続し会員でいたい247名41%、看護と繋がってほしいので、生涯会員でいたい25名4%、健康でいる限りは、継続し会員でいたい17名3%であり、会員継続意思のある方は289名48%であった。また、職場を退職時は、退会する予定153名26%であった。

現段階では、決めかねている87名15%、職場を退職時は、継続を検討する52名9%

であり、計139名24%の方が継続か否かはっきりしていなかった。

